

特定非営利活動法人地球と未来の環境基金

## 平成 24 年度事業報告書

平成 24 年 4 月 1 日から平成 25 年 3 月 31 日まで

### 事業の成果

本年度実施した事業は下記の通りである。

#### (1) 国内森林保全事業

- ・千葉・木更津市での植樹・竹林整備事業
- ・奈良・吉野町での間伐/PAL植樹事業
- ・静岡・川根本町での植樹事業
- ・埼玉・飯能市での植樹活動
- ・広島・竹原市での植樹事業
- ・岩手の植樹地メンテナンス事業

#### (2) 海外環境保護事業

- ・東北タイ生物多様性の回復と生活の質向上プロジェクト
- ・北タイでの生態系保全型統合農業法推進事業
- ・ブラジルでの荒廃森林回復支援事業
- ・インドネシア・カリマンタンでの熱帯林回復支援事業

#### (3) バガス（非木材紙）普及事業

- ・バガス普及啓発事業（大学学園祭へのモールド導入）

#### (4) 環境助成金プログラム支援事業

- ・環境NGOの組織基盤強化助成事業（Panasonic NPO サポートファンド）
- ・環境保全助成事業案件評価支援事業（全労済地域貢献助成・三井物産環境基金・アヴェダアースデイ月間助成）

### 決算概況

2012年度 ご寄付ご協賛企業・団体一覧

## (1) 国内森林保全事業

### 【千葉県・木更津市での植樹・竹林整備事業】

今年度の千葉の森づくり活動は、平成 22 年 3 月より活動を続けている木更津市真里谷のフィールドを重点的に行った。8 月 8 日は、EFF のスタッフ 2 名にて刈払機を用いて植樹地の草刈を行い、前年に植樹した苗木の育林に努めた。また、11 月 10 日には、青年ボランティア団体草の根ムーブメント 14 人を含めた全 23 人の参加で、その前年植樹地のすぐ隣に位置する竹林を伐採、整備作業を行った。

植林は、秋に伐採した竹林跡地を植栽場所とし、昨年と同時期の 3 月 3 日に実施、苗木はクヌギ、ケヤキ、コナラ計 60 本用意した。参加者は株式会社トラスト 14 人、らでいっしゅぼーや株式会社 2 人、草の根ムーブメント 18 人に事務局を合わせた全 37 人である。事前準備として、前日に、植栽場所の目印として苗木毎の色テープを貼付したサプリガード（鹿除けネット）の支柱を立て、どの場所に何の苗木を植えるかを一目で判別できるように工夫した。また、植樹に際しては、コウゾやマダケの若芽が邪魔になることが多く、都度、手鋸を用いて刈り取り、撤去する作業も必要になることから各班のチームワークが求められた。

昨年までは、本フィールドには鹿は出没しないと考えていたことからサプリガードは設置していなかったが、昨春に EFF スタッフが鹿の糞を発見して、本フィールドにも鹿が出没することを確認、サプリガードを設置することを決めた。サプリガードに初めて触れる参加者が多く、また、マダケの根が多い為に穴を掘るのにもひと苦労で、1 人頭 2 本程度の植樹作業だが 2 時間半を要した。花粉が少なく、清々しい 3 月の陽気に気持ちいい汗を流した後は、いつも通り現場で調理した昼食を摂って午後 2 時に活動を終えた。

#### 【11 月 10 日ー竹林整備活動】



#### 【3 月 3 日ー植樹活動】



【奈良・吉野町での間伐 / PAL 植樹事業】

◆元気森・MORI in 吉野山

2012 年 11 月 17 日、奈良県吉野山で、毎年恒例の一般市民と協賛企業のボランティアを集めた間伐活動を予定していたが生憎の悪天候のため中止とした。スタッフを含めて 102 名もの参加者が町内外から集まる予定だっただけに大変残念である。

けれども、午後には雨がやみ、作業が可能となったため、平成 19 年の植樹地のメンテナンス（サプリガード補修作業、補植作業）は、予定通り実施することができた。



メンテナンス後の植栽状況

◆PAL 植樹事業

2013 年 3 月 20 日、奈良県吉野町の民有林にて、協賛企業の株式会社パルおよびザ・パック株式会社のボランティア、森林組合を含めた現地の林業専門家、山主の参画のもと、植樹作業及びサプリガードの設置を実施した。総勢 63 名・全 5 班に分かれ、トチ 20 本、ソメイヨシノ 10 本、アンズ 20 本、ヤマモモ 10 本、サンシュ 20 本、ガマヅミ 20 本といった広葉樹合計 100 本を植栽した。

本活動は、吉野の世界(文化)遺産の山林の保全と育成を目的としている。酒造会社を運営されている北岡氏の山林をお借りし、株式会社パルの協賛のもと、また、吉野中央森林組合、ザ・パック株式会社、私たち EFF を合わせた 5 者の協働により、生物多様性の森への回帰を目指す活動で、2015 年まで継続する予定（今年は 3 年目）である。次年度（2014 年）からは、これまでの 3 年間の植樹地のメンテナンスなど、育林の作業に特に力を注いで行く。

<今回の活動実績>

フィールド面積 : 0.5ha（ヘクタール）

広葉樹の植樹 : 計 100 本（トチ 20 本、ソメイヨシノ 10 本、アンズ 20 本、ヤマモモ 10 本、サンシュ 20 本、ガマヅミ 20 本）

<参加者> 63 名

株式会社パル、ザ・パック株式会社、吉野中央森林組合、吉野町、吉野町林業研究会、奈良県南部農林振興事務所、株式会社北岡本店（山林保有者）、大一工業株式会社、公益財団法人大阪みどりのトラスト協会、特定非営利活動法人地球と未来の環境基金



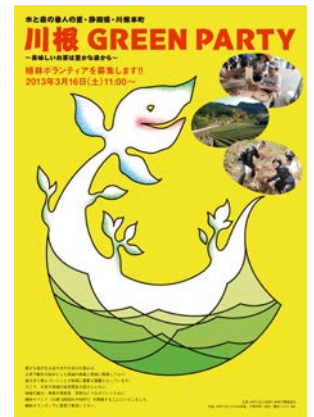
植樹作業風景



株式会社 PAL の社員の皆様集合写真

## 【静岡・川根本町での地域活性化型森づくり事業】

2013年3月16日、静岡県榛原郡川根本町の民有林にて、助成支援いただいている積水ハウス株式会社静岡工場のボランティア、県内の一般市民のボランティア、主に首都圏から参加の学生ボランティア、協働している NPO 法人かわね来風、地元林業専門家、川根本町役場職員、地元の木材や農林水産品を商品として扱う事業者など、総勢 133 人の参画のもと、植樹作業及びサブリガードの設置、また地域の農林水産品の即売会やワークショップを実施した。植樹作業としては、参加者を全 5 班に分け、林業専門家の指導のもと、ヤマボウシ 50 本、イロハモミジ 20 本、ウメ 50 本、コナラ 50 本といった広葉樹合計 200 本を約 0.5ha に植栽した。



川根 GREEN PARTY フライヤー

本活動は、観光資源や自然資源に恵まれた川根本町で推進する事業だが、他地域と同様に高齢化、過疎化が進行し、かつては非常に盛んであった同町の林業も、若者の流出や木材価格の低迷によって林業家の数が減少し、森林の継続的な活用が困難な状況にある、また、豊かな森が生み出す水や大井川の恵は、お茶や観光を始めとした地域産業と密接に関連しており、森を守り育てていくことが非常に重要な課題であると考えられる。そこで、本年より、EFF は、上記課題の改善を目指し、下記の取り組みを始動する。『川根 GREEN PARTY』は、その長期的取組みのキックオフイベントであった。

I. 植樹や間伐などボランティアを巻き込んだ森づくり活動による持続可能な森林管理の促進

II. 静岡県川根本町の地域活性化

III. 自然資源の再生・保全による茶業、林業、木材加工業、観光産業の推進

初年度である今年度は県内外から多くのボランティアを集めることができ、同町の山林の課題の認知促進、環境意識向上に寄与することができた。今後は、同森林保全活動を継続できるよう実施体制の強化が望まれる。今回つながることができた各協働主体と協議を繰り返し、環境的・社会的・経済的な観点からサステナブルな理想の川根本町を創っていききたい。



植樹作業風景

<p>&lt;プログラム&gt; 9:25 静岡駅南口ロータリー集合</p> <p>11:10 開会</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・開会の挨拶 (NPO 法人地球と未来の環境基金 理事長 古瀬繁範)</li> <li>・森とお茶のお話 (F-net 大井川 杉山嘉英さん)</li> <li>・植林の作業説明</li> </ul> <p>11:40 全 10 班に分かれて植樹作業</p> <p>13:30 川根本町の食材を使用した食事提供と参加者交流会</p> <p>14:00 川根本町の地産品を原材料とした商品即売やワークショップの実施</p> <p>15:10 閉会式</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・川根茶の可能性について (榎おちゃらか ダントン・ステファン)</li> <li>・感想 (積水ハウス株式会社 執行役員 静岡工場長 佐藤博之)</li> <li>・閉会のご挨拶 (NPO 法人かわね来風 理事長 梶原俊介)</li> </ul> <p>15:30 送迎バス出発、完全撤収</p> <p>16:00 道の駅「川根温泉」に送迎バス立寄った後に静岡駅着、解散</p>
---



積水ハウス(株) 静岡工場の皆さん



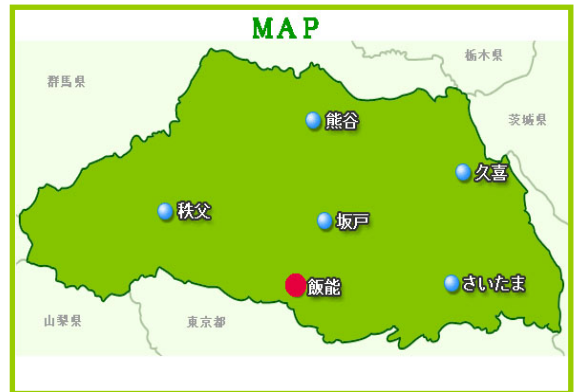
かわね来風による野外ゲーム「クッパ」

## 【埼玉・飯能市での植樹事業】

## ◆埼玉・飯能市について

埼玉県飯能市は、県の南西部に位置している。市の約76%が森林に覆われており古くは林業・織物の町として栄え、300余年の伝統を持つ「西川材」の生産地として知られている。しかし、各地で深刻化している林業衰退の波は当地にも押し寄せ、山村の過疎化や林業家の高齢化が進み林業経営は極めて難しい状況で伐採後再植林されず放置される森林が各地に点在する状況となっている。

そこで、EFFでは2009年の伐採後に再植林できず放置されている場所で、コナラなどの広葉樹を植樹し、生物多様性の豊かな森へと回復させる活動を開始した。また、この地は荒川水系一級河川・高麗川の水源地の1つとなっており森林を再生させることは、地域住民を始めとして首都圏に住む人々にとっても水の供給源を守るという重要な意味を持つ。自然のつながり、そしてこの水源地と都市部の人々の繋がりを森林の保全活動を通じて育む活動を、今後展開していく予定である。



植樹対象地

## ◆2013年 植樹スタート

2013年3月10日（日）、記念すべき第1回の植樹活動を実施した。

当日は、季節はずれの暑さと強風に見舞われたが、参加して下さったボランティア有志25名は、急斜面での作業にも関わらず、2時間弱でコナラ・クヌギ・山桜の計50本を無事植樹した。

また、この時期はまさに花粉の飛散量の多い季節。植樹地は、周りをスギ・ヒノキに囲まれているため、風が吹くとあたり一体が黄色いモヤに包まれる状況になり一同非鳴をあげる事態となったが、身を持って森林の現状・問題を体感し、森と人との在り方に想いを巡らせる機会ともなった。

まだ、スタートをきったばかりの本活動だが、首都圏に近い立地も活かし、参加者一人ひとりが森林保全活動を通して自然の恵み、そして地域の魅力を知る取組を実施していきたいと思っている。



大量の花粉が飛散する中、手際よく苗木を植える



記念すべき第1回・参加者のみなさん

## 【広島・竹原市での植樹事業】

4年計画の最終年度となった今年の植樹祭は、約0.69haに地元竹原高校の生徒、(株)エディオン、フマキラー(株)、ザ・パック(株)等の企業社員、一般ボランティアの総勢185名でスーパーマツ650本、オオシマザクラ300本、ウバメガシ・モッコク・モチノキ・ネズミモチ各50本の計1,200本を植樹した。

また、昨年と同様に0.2haに積苗工を施工し苗木を根付きやすくすると共に、ウバメガシ・モッコクなど防火力の高い樹種を混ぜ、多様化を図りながら火災に強い森林の再生を目指し活動を行った。



急斜面でも足を踏ん張りながら植樹にとり組む高校生



参加者185名全員で！

加えて、植樹後のオプション企画として、今年は広島県が誇る“牡蠣”をテーマに森林を再生させる意義や森・川・海の自然のつながりを学ぶエコツアーを本年も実施した。講師は、呉市安浦町で牡蠣・養殖漁業を営む金田水産の金田祐児氏。エコツアーでは漁船に乗り、牡蠣の成長過程や養殖方法、そして牡蠣の成育にとって山からもたらされる恵みが重要なことを実際に、現場を見ながらお話いただき、牡蠣の収穫体験も実施した。安浦町では、現在主流となっている筏を使った養殖のほか、県下で唯一“くい打ち式”という方法での養殖も行っており、その手法やできる牡蠣の違いや作り手の想いに、広島県内から集まった参加者は、熱心に話に耳を傾けていた。下船後には、波止場でくい打ち式の焼牡蠣と牡蠣雑炊を堪能し、参加者約10名は馴染み深い食材である牡蠣を通じ、自然そして生命のつながりを多分に感じた様子であった。



引き上げられた牡蠣を見つめる参加者



収穫体験！ペンチで切る瞬間がどきどき

国有林での4年計画の植樹は今年で最後となったが、引き続き山肌が剥き出しとなっている竹原市内の森林で山林再生のための植樹活動を継続しながら、自然のつながりそして、その恵みを通じて参加者と地域の方の繋がりも生み出していける取組みを検討していきたい。

### 【岩手の植樹地メンテナンス事業】

12年目を迎えた植林地において、夏の草刈と秋の雪対策としての支柱立てを実施した。8月19日、背丈以上に伸びたカヤ(イネ科の多年草、かやぶき屋根の材料とされる)を西和賀森づくり隊と一緒に刈る。暑さを避けて早朝7時から始めて昼前に終えた。今年は自走式草刈機を止めて、東京より持参したものを含め刈払い機のみで対応した。10月20日には恒例となった支柱立てをザ・パック株式会社仙台支店の社員に参加していただき実施した。昨年の支柱が大分倒れていて、草刈時の障害になるのでそれらを取り除き使えるものは先を削って再利用し、腐敗が進んでいるのは焼却した。いつもなら見ごろのシーズンである紅葉が今夏の猛暑のせいもあって遅れ気味だ。ここ数年体調をこわされ姿を見せなかった山主の小田島さんが久しぶりに現場に現れて自ら写真を撮るなど元気な様子である。

2003年度に植えた奥側部分の支柱立てについては11月25日に実施した。この日は数日前からの雪が積もり積雪約30cm、一面の銀世界であった。猛暑の次は大雪の到来、それを予感させるには十分な積雪量である(実際に2013年の冬は大寒波と大雪に見舞われた)。EFFスタッフの木村が初めて参加して、雪の中、苗木と支柱を結わく作業に従事した。苗木1本ごとに支柱を建て3箇所ほど縛る。枝を縛ることで雪の重さで折れないようにするためである。コナラは積雪量より丈が伸びたので支柱は不要になったが生長の遅いブナはまだしばらく支柱が必要と思われ次年度以降も支柱立てを実施していく。



刈払いの様子、草は背丈を越している(8月)



刈払い後、見通しが良くなった



支柱立て作業、現場に到着した小田島さん(10月)



支柱立て終了

## (2) 海外環境保護事業

### 【東北タイでの環境教育事業】

タイ国ウボンラチャターニー県の 11 の村において、子ども主体で環境活動するエコクラブと循環型農業を実践するモデル的な農民に対する支援活動を行なった。エコクラブの活動と活動発表を通じて、子どもたち自身が地域社会における環境活動の担い手となるよう促し、さらに、エコクラブ活動のひとつであるコミュニティフォレスト(里山)保全活動をモデル的な農民と連携してまた指導を受けることによって、地域社会全体が生態系の保全に関心をもつようになり、相乗効果として持続可能な農業の普及を図るにいたった。

エコクラブ活動は 4 から 13 学校に広がり、ごみの分別や削減、リサイクルについて考え、提案、実践した。コミュニティフォレスト保全では、6 箇所に 16 種 5,540 本の植樹をし、また、鳥や魚、カニ、蛙などを森に放して生物の観察調査を行なうことで、活動への興味関心を高めた。村人と一緒にチェックダム作りにも参加した。

モデル農民活動については、18 人の農民が参加して、多品種栽培、養魚、養鶏、キノコ栽培、植樹用苗木栽培などを通して食の安善と食糧自給、織物などによる収入増を目指した。また、熱効率に優れた土窯づくり、ドラム缶窯による炭焼きをはじめること薪の消費量を減らした。同時に、木の灰を使った防臭剤、木削液の防虫剤なども作り、統語的な農業を推進している。果樹園や菜園作り、養魚、養豚養鶏、藤(ラタン)の植樹などをエコクラブと一緒にやることで双方の活動発展に役立たせている。



郡の教育委員会で展示発表するエコクラブの子ども達



コミュニティフォレストの看板を制作、自然観察ポイントに設置



リーダーシップトレーニング(問題分析と発表能力開発)



村の伝統工芸・ゴザ作り(森の草を使った伝統織り)

## 【北タイでの生態系保全型統合農業法推進事業】

当タイ北部山岳の5つの村(人口1990人、362世帯)において、統合農法を普及し、他村への波及を図る人材育成を目的に、以下を対象にしたトレーニングを実施した。(統合農法とは・・・多品種の農産物を同一農場で生産し、稲作、畜産(養豚、養鶏)、養魚を組み合わせ、さらに複合的な利益を得られるように、ため池の周囲に果樹など木本系の植物を植える農法)

### 1.モデル農民トレーニング

5村から意欲的な農民26人をモデルとして選んでトレーニングを行なった結果、そのうち25人は統合農法の農地を持ち溜池を造成して魚を飼うことができた。統合農法農地は徐々に増えていき、逆に、それまでは広がった化学肥料による換金用単作栽培農地は減ってきている。モデル農民は成果発表セミナーにおいてプレゼンテーションをして今後の指導力を高めた。

### 2. 昨年度トレーニングを実施した3村に対するフォローアップや実践指導及び新規2村へのトレーニング

クロスビジット(相互視察)を5村合同で2度行い、統合農法、コーヒー栽培、新しい樹種(ビンロウジュ椰子など)の育樹法、チェックダム(小型堰)の効果的な建造法を指導した。その結果、5村合計で64人が有機堆肥作りを始め、103人がそれぞれ10から20種の伝統的地元野菜の栽培を始めた。また、全戸のうち31%が養鶏を始め、養魚は70世帯に波及、86個の養魚池をつくった。まだ販売はできていないが自家食を始めたことにより肉や魚の購入費を削減できた分の経済効果は認められる。さらにコーヒーを栽培する農民は4村で19人に増え、今期は7,150本を植樹した。そして、これまでは赤い果実のまま出荷していたが、赤い果肉を剥いて殻付き豆(ガラ)にするための機械を導入して、コーヒー付加価値化プロジェクトを開始した。



統合農法のコンセプトを話し合い、年間通じ栽培できる作物を学習



農民同士が訪問し合い土地活用や栽培方法などの説明を受ける



安定した水流を維持するためのチェックダム  
土嚢袋に土とセメントを入れ積む



鶏の雛を配布して鶏舎での飼いや抗生物質の  
与え方などを指導

### 【ブラジルでの荒廃森林回復支援事業】

今年度、ブラジル・サンタバルバラ郡内エスペジット・リベイロ地区でのアグロフォレストリー支援事業は、従来のように直接入植者を選び森林農業支援は行わず、入植者の協会（ATRAER）に対し、要望のある農業資材の一部支援を行った。持続可能な営農への手助けとなるよう、協会に対してはこの資材を使う者は収穫後、同じ資材あるいは同等の金額を協会に返し、それが継続してゆけるようなある種マイクロクレジット的な要素を持った仕組みの試験的導入を提案した。簡単ではないが、少しでも入植者が自分たちの協会を通じた互助制度をつくり、持続可能な農業に移行して行ければと考えている。また、本年は東京農工大の JICA 草の根プロジェクトと提携できたことで、展示圃場での栽培技術の習得、先進地での研修会、トメアスー農協の技師を招いての現場研修と技術指導を得ることができた。更にコミュニティ苗畑の造成を行ったことも特筆できる成果となった。当地での活動も 4 年目を迎え、初期に支援した耕地では、各種熱帯果樹が実るようになり、農民の土地への固定化に寄与できていると感じる一方、本プロジェクトが今後とも成果をあげてゆくためには、コミュニティのリーダーが務まるような人材が数名は必要であり、リーダーが育ってゆくようにすることは、今後の重要な課題となっている。



資材を活用して作られた養魚池



トメアスー農協の技師を招いた堆肥づくり研修

また、現地カウンターパートの Asflora の協力を得て、12 月 14 日に入植地に隣接するミネラルウォーターを生産する会社（エスレイラ・ダルバ）の敷地で植樹活動を行った。植樹した場所は、以前は牧場として使用され砂質土壌で極めて痩せている土地であるが、地下にはミネラルウォーターをくみ上げている良質な水脈があり、その水脈は、近辺の二つの川の水源ともなっている。

当日は、約 500 名の地元の子供たちと父兄、地元市役所代表、在ベレン日本総領事館などが参加して 1,200 本の苗木を植樹した。その後、降雨状況に合わせ、同月末より 1 月にかけて 40 樹種合計 4,500 本（0.2ha）の植樹を完了した。入植地の協会と隣人の会社が協力し合える関係を築くことに、今回の活動は大いに役立った。



## 【インドネシア・カリマンタンでの熱帯林回復支援事業】

インドネシアの環境保護団体・FNPF が行う『ラマンドー自然保護区』での熱帯林再生事業活動は、2010 年後半の開始から約 2 年半が経過した。

現地からの報告によれば、2012 年度の活動成果は目覚ましいものがある。

ここで実施されているのは、違法伐採や度重なる火災によって森林が消失し、オランウータンや貴重な野生生物の生存が危ぶまれているこの保護区内で、わずかに残っている小さな森林をつなぐ『緑の回廊』を作り、生物多様性を維持できる森林の回復を目指すプロジェクトである。事業開始時の計画では 5 年間で約 40ha の森林造成が目標となっており、初年度の 2011 年（雨季の 11 月～2012 年 2 月）にはまず 2 つの飛び地の森林をつなぐ幅 30 メートル、長さ 2.4km、面積にして 7.2ha の土地に 8,000 本の植樹が行われた。さらに 2012 年度は、29,250 本の苗木を約 3km に亘って植樹した。また昨年植えた場所に沿ってさらに 2km 以上に亘って 12,000 本の補植を行った。これにより野生生物は数年後には約 5km の回廊を自由に行き来することが可能となり、行動範囲が格段に広がることになる。植樹された樹種は Ubar Samak (*Syzygium polyanthum*)、Belangeran (*Shorea belangerans*)、Pelawan (*Tristania mainganyi*)などであり、初年度に植えた苗木は 80%の確率で活着していると報告されている。

順調に進んでいる植樹活動ではあるが、最大の脅威は乾季になると高い確率で発生する森林火災である。この地域は他の伐採地と同様に土壌は劣化が激しく、繁茂する雑草は非常に燃えやすいため、一度火がつくと瞬く間に広範囲に延焼する。何日もかけて苦労して植えた苗木が 1 日にして焼失してしまう事態も過去に経験している。高価な消火器を大量に常備することは資金的に難しく、また一方で供給が限られている水を消火活動に大量に投入してしまうと、今度は乾季の苗木への水やりが不足するというジレンマもある。スタッフはパトロールを強化して、違法狩猟者による焚き火の燃え移りや意図的な放火などを取り締まっているが、5 万 ha 以上の広大な土地を監視することは容易ではない。

しかしながら FNPF のこのような地道な努力と堅実な活動により、ラマンドーの森林は少しずつではあるが回復に向けて前進している。日本においてもぜひこの活動を広く紹介し、支援を続けて行けるよう今後も尽力していきたい。



植樹用の苗木作り。近隣の村人の協力により、地域で採取した種や苗をポットで育てている



広大なラマンドー自然保護区内の草原。遠くに植樹する人影が見える。苗木を運ぶにもバイクが必要だ

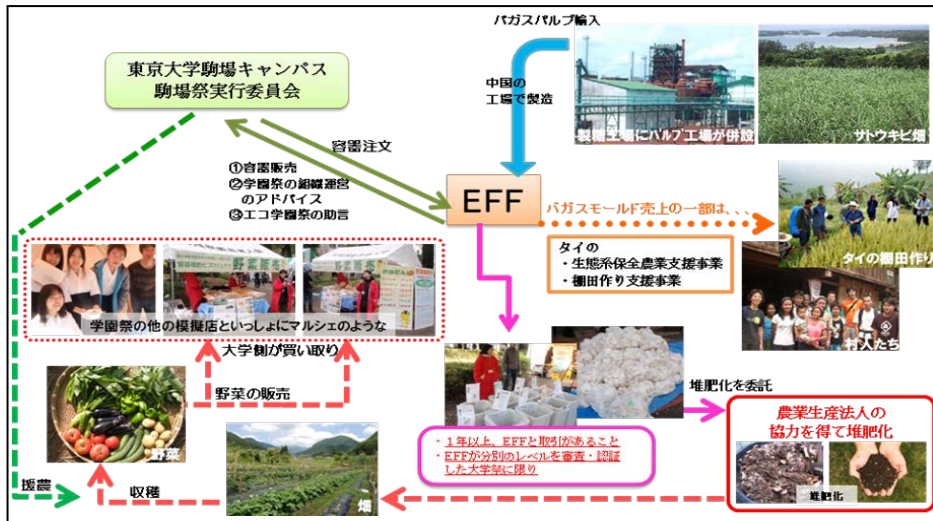
### (3) バガス (非木材紙) 普及事業

#### 【バガス普及啓発事業 (大学学園祭へのモールド導入)】

エコ学園祭を推進する商材としてバガスモールドの導入を働きかける活動を展開している。砂糖きびの搾りかす (バガス) を原料にしたバガスモールドは、未利用資源を活用、木材資源の消費低減から森林保全に寄与するとともに、焼却処理しても有害物質を発生させず、土中で容易に自然分解できるという優れた特徴を持つことから、10年以上も前から、学生環境活動の一つとして注目されてきた。

本活動は、全国の学園祭におけるバガスモールドの普及拡大を狙いとしており、学校生協へのチャネル開発と地域の紙関係企業 (卸商や小売店など) に対するバガス (非木材紙) への認知度向上および経済的インセンティブの喚起を目指している。一昨年より、バガスモールド導入に係る事柄だけではなく、他の環境企画やバガスモールドの土壌分解のコツ、大学祭自体の来客数増加施策、実行委員会の人材戦略やミッション・ビジョン作りについても相談に乗るなどのサポートも実施して導入校を増やしてきた。さらに、埋め立て場所を持たない都市部の大学から多く寄せられる廃棄モールドの土壌分解の要望に応えるため、小規模農家や農業生産法人とコンソーシアムを組み、土壌分解 (堆肥化) のサービスを確立、3校で実施トライアルができたことで、前年比売上 203%を達成した。

#### 【東京大学駒場祭のバガスモールド循環型事業事例】



#### 【2012 年度 学園祭でのバガスモールド導入実績】

大学名 (日時)	来場者数 (人)	どんぶり		バック		平角皿	椀	丸皿		カレー	コップ <sup>o</sup>	合計
		MD-3	MD-5	MP-1	MP-2	MT-3		H024	MM-4			
		小	大	大	小	中	H011	大	中	MM-11 MZ-1	L051	
東京大学五月祭 5月19・20日	約 100,000	0	3,100	0	9,000	0	0	0	0	0	0	12,100
人間総合科学大学 10月27日	約 800	0	300	0	200	0	0	0	0	0	1,000	1,500
東京農業大学 11月2~4日	約 120,000	21,500	0	0	31,000	4,000	0	0	0	100	0	56,600
愛媛大学 11月10・11日	約 10,000	0	2,950	3,150	0	3,950	0	0	750	250	4,000	15,050
関西学院(高校) 11月17日	約 5,000	800	0	0	0	50	250	400	1,000	0	0	2,500
東京大学駒場祭 11月23~25日	約 100,000	17,000	0	0	12,500	21,000	0	0	7,000	0	0	57,500
合計	約 115,000	39,300	6,350	3,150	52,700	29,000	250	400	8,750	350	5,000	145,250

#### (4) 環境助成金プログラム支援事業

##### 【環境NGOの組織基盤強化助成事業（Panasonic NPO サポートファンド）】

パナソニック(株)との協働で展開している NPO/NGO の組織基盤強化を支援する助成プログラム『Panasonic NPO サポート ファンド』の助成テーマを、昨年、「組織診断にもとづくキャパシティビルディング」へと刷新した。これに伴い、プログラムの内容も、外部専門家等の支援を受け、客観的な視点による分析を実施した後、その診断結果に基づいて組織基盤強化（キャパシティビルディング）を図るという「組織診断」と「キャパシティビルディング」の2段階で助成するスキームに大きく改編させている。

2012 年は、その新しいプログラム実施の2年目であった。昨秋より組織診断に取り組んできた8団体を対象にキャパシティビルディング助成選考会を実施、選考委員による厳正な評価・審議の後にキャパシティビルディング事業助成先として3団体を選定した。

また、昨年と同様に、新規の「組織診断助成」プログラムについて助成団体を公募した。応募時期に合わせて「キャパシティビルディング ワークショップ&公募説明会」が、全国4地域（東京、名古屋、京都、福岡）で開催された。今年度、当団体では、東京会場の開催のみ受託し、NPO の組織基盤強化に高い関心を寄せる参加者が多く集まったが、実際の応募数は5件にとどまった。尚、「キャパシティビルディング ワークショップ&公募説明会」の全会場の参加団体からの環境分野への応募数は0件であった。

ワークショップ（東京会場）の企画内容は3部構成とし、第1部を、本年度より本ファンドの選考委員に就任された武蔵大学教授の粉川一郎氏に「社会を変える NPO に求められる評価とは？」というテーマで講演いただいた。第2部と第3部は、本助成プログラムの刷新に伴い、昨年と同様の切り口で、グループワーク等を通じて NPO の組織診断や課題抽出の手法を理解することを趣旨とし、また、これまでに本助成を受けて組織基盤強化に取り組んだ団体を招聘し、事業内容、本助成に取り組んだ体験談や成果について発表いただいた。

開催地	開催日時	開催場所	共催・協力団体	事例紹介団体	参加団体数	参加人数
東京	6月26日(火) 13:00~18:00	GEOC	環境省関東地方事務所、 EPO/GEOC	(特活)荒川クリーンエイド・フォーラム (特活)チャイルドライン支援センター	15	20

助成プログラムについての第2ステージとの大きな変更点は、組織診断とこれに基づいたキャパシティビルディング施策に取り組める団体という助成ターゲットを勘案し、団体要件として「財政規模が1,000万円以上であること」、「有給常勤スタッフが1名以上であること」を追加した点である。

「組織診断助成」の選考プロセスは、7月31日に公募を締め切り、応募のあった全5件中1件は団体要件を満たさないと判断、4件について4人の選考委員に案件評価を依頼した。その上で9月下旬に選考委員会を開催、助成先候補として3団体を選定、10月初旬に事務局が助成先候補を訪問し、選考委員会で出された指摘・確認事項に基づいてヒアリング(実査)を実施した。10月中旬にヒアリング結果を選考委員会へフィードバック、選考委員の最終意見を取りまとめ、広瀬選考委員長との協議を経て最終的に3団体に計295万円の助成を確定させた。

さらに、2011年11月から2012年5月までに本ファンドの支援を受けて組織診断に取り組んだ団体、および2012年に本ファンドの支援を受けてキャパシティビルディングに取り組んだ団体を対象にして「キャパシティビルディング助成」(継続)を募集した。応募のあった4件の助成申請内容について選考委員と事務局で審議、3団体(計600万円)への助成を採択した。11月20日には「組織診断助成」および「キャパシティビルディング助成」の助成先計6団体を集めて贈呈式(於 パナソニックセンター)を開催した。

2012 年度に組織基盤強化事業に取り組んでいる助成団体（4 団体）へのフォローとしては、四半期報告書の提出を課し、7 月に各団体への中間ヒアリングを実施、助成事業の進捗状況を確認、事業実施上の問題点や下半期へ向けた課題の改善策などを話し合った。また、3 月上旬には成果報告会を開催し、助成団体による事業成果の発表と共有を行い、広瀬委員長や木村委員、富田委員からご意見、アドバイスをいただいた。後半では木村委員に、“支援者のコミュニティを如何に醸成していくか”をテーマにして、あいちコミュニティ財団設立を事例に講義いただき、助成団体の更なる発展に寄与する機会となることを目指した。

<Panasonic NPO サポート ファンド 2012 年募集事業 助成先>

助成団体	所在地	代表者（役職）	助成額 (万円)
<b>【組織診断助成】 &lt;グループコンサルティング コース&gt;</b>			
(特活) さつぼろ自由学校「遊」	北海道	宮内泰介（共同代表）	100
(特活) スペースふう	山梨県	永井寛子（理事長）	95
(特活) 河北潟湖沼研究所	石川県	高橋 久（理事長）	100
<b>【キャパシビリティビルディング助成】</b>			
(特活) 持続可能な開発のための教育の 10 年推進会議 「ESD コーディネーター育成の事業化プロジェクトにおけるテキストブック制作」	東京都	重 政子（代表理事）	200
(特活) ホールアース研究所 「自然学校を『非日常』で終わらせないコミュニケーション深化事業」	静岡県	広瀬麗子（代表理事）	200
(特活) NPO 砂浜美術館 「『すなびてんぼ』による地域資源活用ネットワークの創造」	高知県	村上健太郎（理事長）	197
<b>【キャパシビリティビルディング助成】(継続)</b>			
(特活) アースウォッチ・ジャパン 「国内プロジェクト開発・評価検討事業」	東京都	浦辺徹郎（理事長）	200
(特活) 自然体験共学センター 「組織マネジメント力の強化」	福井県	辻 一憲（理事長）	200
(特活) 環境ネットワークくまもと 「環境エネルギー事業の事業化に向けた組織基盤強化」	熊本県	宮北隆志（代表理事）	200
助成総額（9 団体）			1,492

### 【環境保全助成事業案件評価支援事業】

#### 1) 全労済地域貢献助成

全労済（全国労働者共済生活協同組合連合会）の助成事業「全労済地域貢献助成」は、前年に引き続き助成総額 2,000 万円（環境・子ども各 1,000 万円）で実施された。当団体では今年度も環境分野における助成先選考に係る予備審査業務を受託した。

審査プロセスは 4 月上旬の公募締め切り後、当団体スタッフと全労済本部の社会貢献推進課職員が全案件の評価を行い、5 月上旬に評価を集計した上で、予備審査会を開催した。予備審査会では、記載内容が極めて杜撰で実施に不安がある案件、単発的なイベントに過ぎない要件など、本助成の基準、趣旨に合致しない案件は選外とした。予備審査を通過した案件は、各地域の審査委員（各地の NPO 支援センターなど中間支援組織の方）に送られ、5 月下旬から全労済の 4 事業本部（北日本、東日本、中日本、西日本の各事業本部）ごとに審査委員会が開催され、助成先が選定された。環境分野の応募状況と選考結果は以下の通りである。

#### <全労済地域貢献助成（環境分野）概要>

- 【助成対象】 環境活動を行う全国の NPO、市民団体
- 【助成総額】 1,000 万円
- 【助成内容】 1 団体当たり上限 30 万円まで
- 【応募期間】 2012 年 3 月 16 日～同 4 月 3 日まで
- 【助成対象期間】 2012 年 7 月 20 日～2013 年 7 月 19 日までに実施する活動

※全労済地域貢献助成の詳細は、同社下記 Web サイト参照のこと。

<http://www.zenrosai.coop/torikumi/joseijigyoyou/>

( ) は 2011 年実績

応募数	助成先団体数	助成総額
115(151)	36(36)	9,839,300円 (9,868,076円)

2013 年 2 月から次年度（'13 年度）助成プログラムが公募中である。助成内容、助成総額は'12 年と同様の枠組みで、当団体では引き続き予備審査など一部業務を受託し、助成先選定プロセスにおいて本助成事業を支援して行く。

## 2) 三井物産環境基金

三井物産(株)が主催する「三井物産環境基金」の助成事業（活動助成）については、前年同様の枠組みで、一般助成枠と震災復興活動への助成（復興助成枠）が設けられた。また、復興助成は2度の公募が行なわれた。当団体では、前年に引き続き応募案件の一次スクリーニング評価業務を受託した。2011年の助成概要は下記の通りである。

## &lt;三井物産環境基金（活動助成）概要&gt;

【助成対象団体】 日本国内に拠点を持つ NPO 法人、一般社団・財団法人、公益社団・財団法人、特例民法法人、大学

## 【対象課題】 &lt;復興助成&gt;

東日本大震災の被災によって発生した環境問題の改善・解決、及び被災した地域における、地球環境に配慮した持続可能な社会の復興・再生を行う活動

## &lt;一般助成&gt;

地球環境問題の解決と持続可能な社会構築に貢献する「実践的な活動」

## ●対象分野●

- ①地球気候変動問題、②水産資源の保護・食糧確保、③表土の保全・森林の保護、
- ④エネルギー問題、⑤水資源の保全、⑥生物多様性及び生態系の保全、⑦持続可能な社会構築

【助成総額】 非公表（1案件当たりの助成上限はなし。ただし自己資金比率の規定あり）

【応募期間】 一般助成 : 2012年6月15日締切  
復興助成(第1回) : 2012年6月29日締切  
(第2回) : 2012年11月30日締切

※三井物産環境基金の詳細は、同社下記 Web サイト参照のこと。

<http://www.mitsui.com/jp/ja/csr/contribution/fund/index.html>

	応募件数	採択件数	助成額
一般助成	136 件	14 件	80,339 千円
復興助成(第1回)	93 件	15 件	98,545 千円
復興助成(第2回)	30 件	2 件	12,993 千円

### 3) アヴェダ アースデイ月間助成

エステローダー(株)アヴェダ事業部と当団体の協働事業として、環境 NPO のプロジェクト推進と発展を支援する助成プログラム「アヴェダ アースデイ月間助成事業」をスタートさせた。当団体では、プログラム設計、案件の募集、案件の選考審議、助成先団体のフォロー、成果物の確認など助成事業推進に係る全ての工程に関与、事務局業務を受託している。

9 月下旬に応募を締切り、当団体スタッフ 1 名とアヴェダ事業部社員 3 名が、応募のあった全 7 案件の評価を行い、10 月上旬に案件評価会議を開催し、助成候補先として「特定非営利活動法人しずおか環境教育研究会（エコエデュ）」を選定、採択条件を付しフィードバック、修正案件で正式に案件を承認、助成対象として選定した。

2 月には、アヴェダの顧客である全国のネットワークサロン（美容院）のスタッフを集め、本助成プログラムの紹介や助成先のエコエデュの活動紹介を実施し、同社の社会貢献の取り組みの PR とネットワークサロンスタッフの啓発を図る会が開催された。当団体からもオブザーバーで参加した。

#### <アヴェダ アースデイ月間助成 概要>

- 【助成対象】 環境問題をテーマにした社会貢献活動に取り組んでいる団体（NPO/NGO、任意団体）
- 【助成内容】 1 団体に対して 50 万円助成する
- 【応募期間】 2012 年 9 月 1 日～9 月 27 日必着
- 【助成期間】 2013 年 1 月 1 日～9 月 30 日

## 決算概況

2011年3月の東日本大震災から2年余り経過した。被災地では、未だ仮設住宅で暮らす人々や、原発事故の被災地域に戻れない人々が多数ある中、予算は確保されながら、遅々として復興が進んでいない様子や、震災復興に拠出された補助金等が、震災復興と全く関係のない事業等に使われるなど、中央省庁と現場の意思疎通のまずさや行政手続きの不備が指摘されている。政治の舞台では、2009年8月の総選挙で圧勝を果たし政権の座に就いた民主党は、毎年のように首相が交代し、外交、経済政策等様々な面で政権運営の未熟さを露呈し、2012年12月の総選挙では、当時野党第一党の自由民主党が294議席を獲得し、単独で絶対安定多数を確保する大勝で第一党に返り咲いた。市民社会の動きで目立ったのは、震災発生後から行われている脱原発を訴える市民のデモ活動であろう。昨年は毎週金曜日に脱原発や野田政権打倒などを訴える人々がデモ活動を行ういわゆる「官邸前デモ」が注目を集めた。世界に目を転じれば、アラブ諸国では「アラブの春」と称される大規模な反政府デモが激化し続けており、民主政治を求め独裁政権を打倒した国々でも、多くが新たな政権抗争の内乱状態が続いている。

こうした状況の中で、当団体の事業に関する今年度の状況は、国内の森作り活動では、岩手、千葉、奈良、広島との4箇所での活動を継続した他、新たに静岡県（川根本町）と埼玉県（飯能市）での森づくり活動をスタートさせた。海外における環境保護事業では、当初3年計画でスタートした外務省のNGO連携無償資金によるタイ北部地域におけるプロジェクトにおいて、現地駐在員が体調不良等諸々の要因から退職に至り、後任探しに手を尽くしたが適任者を得ることができず、2年で打ち切らざるを得ない結果となった。バガス（非木材紙）の普及事業では、前年度3校であった学園祭でのバガスマールドの導入が今期は6校と倍増し、販売実績個数および販売額も前年対比で約2倍となった。また、(株)パノコトレーディングを通じたバガスパルプの日本国内への輸入実績も前年度16コンテナ（352トン）から30コンテナ（660トン）とリーマンショック当時の水準まで回復した。環境助成金プログラム支援事業では、Panasonic NPO サポートファンドが第三ステージの2年目を迎えたが、組織診断とキャパシティビルディングと2段階の助成に区分したことや、外部の第三者を入れた組織診断等が、環境NPO/NGOのニーズと乖離した可能性もあり、応募件数が5団体と過去最低水準まで落ち込んだ。応募件数の回復を最優先目標に掲げ、次年度に向けて助成プログラムの内容を改善するなど検討を重ねている。その他の助成プログラム支援としては、従来からの全労済地域貢献助成、三井物産環境基金に加え、エステイローダー(株)が展開するAVEDAブランドのアースディ月間における取り組みを支援した。

団体の組織基盤としては、役員体制は前年度と変わらず7名の理事と2名の監事という体制、事務局も常勤職員2名に、非常勤、サテライト数名という体制で運営を担ってきた。海外での活動については、タイにおける事業で凶らずも露呈したが、当団体の弱みとして、現地事情や語学等に一定の知見を有する職員が不足しており、今後活動を充実させて行くに当たっては、人材の確保、育成が不可欠であろう。また、財政基盤としても、寄付の拡大、収益事業の開発、新規事業等の受託など課題は山積しており、引き続き組織基盤を強化して行く必要がある。

今年度の決算状況を総括すると、当期経常収入は 34,502 千円（前年対比 72.8%）、当期経常支出は 37,238 千円（前年対比 78.3%）である。経常支出の内訳は、事業費が 29,265 千円（前年対比 70.3%）、管理費は 7,973 千円（前年対比 134.7%）となっている。以上の結果、当期経常収支は▲2,736 千円と大きく赤字決算となり、前年に続き 2 期連続の赤字決算という厳しい結果となった。年度当初予算と比較すると、経常収入予算 36,622 千円に対する実績比は 94.2%、経常支出予算 41,102 千円に対する実績比 90.6%となっており、予算実績対比では 6~10 ポイントのマイナス差異が生じている。最終的な経常収支では、年度当初予算では▲4,480 千円を見込んでいたが、管理費を圧縮するなどの努力から赤字額は圧縮することができた。

前年実績対比に比べ収入面で大きな変化があったのは、外務省日本 NGO 連携無償補助金の収入である。前年実績で 12,742 千円であった本補助金は、今期は 9,159 千円と約 350 万円減少しているが、これは当初 3 年計画でスタートした本補助金事業が、2012 年度途中で諸々の要因から 2 年で打ち切りとしたことによる。また、前年度 14,020 千円あった事業収入が、今年度は 7,452 千円とほぼ半減となっている。これは前年までは三井物産環境基金の事務局業務を受託していたが、今期からは助成案件の一次スクリーニング評価に限定した受託となったことによる受託額の減少による。また、前期は期中に大塚商会に対する助成制度設計のコンサルティング受託料があったが、今期はそうした収入がなかったことで事業収入が大きく落ち込んだ。今年度の決算に関する対予算や対前年比の分析は下記の表「2012 年度決算の概況」の通りである。

### 【2012 年度決算の概況】

	実績	予算(予算対比:%)	前年(前年対比:%)
<b>経常収入</b>	<b>34,502</b>	<b>36,622 (94.2%)</b>	<b>47,392 (72.8%)</b>
会費・寄付金収入	8,301	9,020 (92.0%)	10,503 (79.0%)
補助金等収入	18,531	22,695 (81.7%)	22,769 (81.4%)
事業収入	7,452	4,907 (151.9%)	14,020 (53.2%)
<b>経常支出</b>	<b>37,238</b>	<b>41,102 (90.6%)</b>	<b>47,567 (78.3%)</b>
国内森林保全事業	8,007	10,278 (77.9%)	6,923 (115.7%)
海外環境保護事業	14,730	16,966 (86.8%)	21,715 (67.8%)
バガス(非木材紙) 普及事業	2,044	749 (272.9%)	824 (248.1%)
環境助成金プログラム 支援事業	4,482	4,370 (102.6%)	12,182 (36.8%)
<b>事業費計</b>	<b>29,265</b>	<b>32,364 (90.4%)</b>	<b>41,646 (70.3%)</b>
<b>管理費計</b>	<b>7,973</b>	<b>8,638 (92.3%)</b>	<b>5,920 (134.7%)</b>

近年の決算状況との比較は下記のとおりである。

【最近3カ年の収支内容】

(単位:千円)

	H24実績	(予算比)	H24予算	H23実績	H22実績
		(前年比)			
経常収入	34,502	(94.2%) (72.8%)	36,622	47,392	40,599
経常支出	37,238	(90.6%) (78.3%)	41,102	47,567	40,489
(事業費)	(29,265)	(90.4%) (70.3%)	(32,364)	(41,646)	(33,862)
(管理費等)	(7,973)	(92.3%) (134.7%)	(8,638)	(5,920)	(6,339)
経常収支	▲2,736		▲4,480	▲174	109
その他収支	121		0	▲61	2
次期繰越収支差額	10,584	(120.1%) (79.6%)	8,814	13,299	13,361

※経常収支には、資産計上される什器備品の購入支出は含まず、その他収支に計上。

以上

## 2012 年度 ご寄付ご協賛企業・団体一覧

### ■ 商品の売上げや、サービスによる収益の一部からのご寄附・ご支援



#### ザ・パック 株式会社

EFF が植林活動を開始した 2000 年から非木材紙(バガス・ケナフ・葦)などを使用した商品売上げの一部で国内森林保全活動を継続してご支援いただくと共に、植林活動にもご参加いただいています。



\* W A S A R A

#### 株式会社 WASARA

海外森林保全活動を、バガス紙器の売上げの一部でご支援頂いています。



#### 株式会社ディレクターズ

国内環境保全活動を、WEB サイト・セキュリティサービスの売上げの一部で、ご支援頂いています。



#### Environment Pulp and Paper Co.,Ltd (EPPCO) :タイ国

海外環境保全活動をバガスパルプの売上げの一部で、ご支援頂いています。

■ 各プロジェクトへのご寄付・ご協賛



株式会社 エディオン

国内森林保全活動(奈良・広島)に、ご協賛・ご参加頂いています。



大下財団、フマキラー 株式会社

国内森林保全活動(広島)に、ご協賛・ご参加頂いています。



株式会社 トラスト

国内森林保全活動(千葉)に、ご協賛・ご参加頂いています。



株式会社 キャナル

国内森林保全活動に、ご協賛頂いています。

■ ポイントプログラムを通じたご寄附・ご支援



アメリカン・エクスプレス・インターナショナル Inc.

アメリカン・エクスプレスカードの利用に応じて貯まるポイント・プログラム「メンバーシップ・リワード<sup>®</sup>」にて、ブラジルの森づくりをご支援頂いています。



家電・住宅エコポイント

家電・住宅エコポイントによるご寄附を、海外での森林保全活動に活用させて頂いています。